

明るい小矢部

No.176
2012年8・9月号

発行
日本共産党
小矢部市委員会
小矢部市七社 245
砂田喜昭
TEL 67-4322
FAX 67-4842

新しい視点 展望しめず
しんぶん赤旗
日刊紙 毎月3,400円
日曜版 毎月 600円

国民の声を無視する 野田首相は辞めよ

国民の5割、6割が反対する消費増税法案の成立を阻止するため、日本共産党など7野党が共同で内閣不信任案を8月7日に提出しました。



ピアゴ前で消費増税法案の廃案 解散 総選挙を求めて街頭宣伝する砂田市議 = 8月7日

増税法案を廃案に追い込むために世論と運動をいっしょに強めることを呼びかけて全国いっせいに緊急の街頭宣伝に取り組みました。砂田市議は国民の声を無視しつづける野田首相を辞めさせよと訴えました。

中小業者には死活問題

衆院の中央公聴会で、元福岡市長で全国商工会連合会会長の石沢義文氏が小規模事業者ほど消費税を転嫁できない、売り上げ3千万円で49%、1千万円では65%が転嫁できない赤字でも消費税は納めなければならない。これでは廃業者が続出すると増税に反対しました。

小矢部市はいま、既存商店街対策、空き店舗対策をやっていますが、消費税増税でこの努力が水の泡と消えてしまいます。こんなことを絶対に許してはなりません。

石沢義文氏(福岡市長)が批判

消費税増税で廃業者続出

大企業には2兆円近い「輸出戻し税」

一方、大企業は消費税の輸出戻し税が2兆円近く2010年度、トヨタ1社で246億円も還付されるなど、究極の益税を享受しています。輸出品に消費税を課税しないのは海外の消費者から日本の消費税を取ることができないから、そのために仕入れにかかった消費税を還付するのが「輸出戻し税」です。ところが、一部の輸出大企業は取引の美態として、中小企業や下請けに対して納品の際に単価を買いたたき仕入れにかかる消費税を実質的に払っています。

日本共産党が「提言」
消費税に頼らないで
社会保障充実、
財政危機打開

日本共産党は消費税に頼らない別のやり方があると、「提言」を発表しました。「能力に応じた負担」で社会保障をよくし、くわえて国民の暮らしと権利を守るルールをつくり、国民の所得を増やす経済改革をおこないます。そうすれば大企業のためこまれた内部留保260兆円を、日本経済の成長に活かすことができ、増税も増やし、財政危機打開の道が開かれます。

消費税増税で 増収に

1997年、自民党・橋本内閣のときに消費税を3%から5%に引き上げたが、国の増収は逆に14兆円も減ってしまいました。法人税減税や大金持ち優遇税制にしたうえに、増税で景気が悪化したから、消費税増税は財政再建にも逆行します。

消費税の被害者は国民

4人世帯の消費税負担額 年間1.2万円

これだけ消費税を払っているのが昨年、生協の全国生計調査モニターに参加し家計簿をもとに1年間に払った消費税を拾い出した方がいます。4人家族で1万9千7百円(月約1万6千円)のつち食費にかかる消費税は5万7千7百円(月4万8千円)でした。この方は「これでも10%に上がったから倍にならないうけでどうも削るしか削るしかない。削るなら食費、教養娯楽費を削るしかない。家族の健康を守るために、でも消費税アップは困る」と語りました。

医療機関も被害者

200床の病院で1億円の損税

公的医療は公共性をもことから消費税非課税とされ、医療機関は保険診療分について患者から消費税を受け取っていません。しかし、医療材料、医療機器などすべての仕入れには消費税がかかるため、その分の負担をなびかなくてはなりません。

ある中堅病院(200床)の場合、消費税の負担額は2011年度約7200万円。診療所や訪問看護ステーションなども含めた法人全体の損税は1億円(11年度にもなりました)。しんぶん赤旗(8月6日付)「国の医療費抑制政策のもとで医療機関はぎりぎりの経営を強いられています。そのもとでの1億円の負担は非常に重い消費税増税で今のシステムのまま10%になったら、倍の1億円になると訴えています。」

志賀原発直下の活断層

第三者機関による再検証を



富山、石川両県の富山、石川両県の共産党議員ら(北陸電力本社 = 富山市、7月27日)

日本共産党が北陸電力に申し入れ

日本共産党富山県委員会と石川県委員会は7月27日、北陸電力にたいして、志賀原発直下の活断層S1断層調査の主要公開と廃炉を求める申し入れをしました。北陸電力による再調査では信用できないとして、第三者機関による再検証を求めました。この申し入れには、砂田市議のほか富山、石川両県の県議、市議、町議も参加しました。

ひろば

義仲 中の大河ドラマ化を陳情しにNHKまで出かけてきた。平清盛の視聴率が低いのは気になる。ところが、悪者としてのイメージがぬけないからか、義仲も都では不評を買ったようだ。が、全国に義仲がゆかりの寺社が多い。義仲が育った長野県では、県歌「信濃の国」にも、旭将軍義仲と歌われている。これは当時、地域の農民、豪族らが義仲を支持していた証ではないか。小矢部市の歴史講座で、越中中世史の研究を著した久保尚文氏が述べたことだ。NHKから乗ったタクシーの運転手が「平清盛」を毎回見るとのこと。平家の政治は、いまの野田内閣と同じ。原発は怖い。みんなそう思っている。それなのに野田首相は原発再稼働させた。毎週金曜日夜、首相官邸前に集まって抗議している人はみんな同じ気持ち。庶民が政治を変える時代になってきたのだと熱く語っていた。平清盛が野田政権と同じだ。という意味が今ひとつわからなかった。平家と源氏のたたかいか私の頭に浮かんだ。だから、たしか、大河ドラマをみてわかった。平氏は武士の世をつくる。と言いつつ貴族化していった。貴族が支配する社会で、武家とたたかいたのだ。野田政権も、自民公明政権と同じ。財界べつたりアメリカ力になりだ。それに反対して、十数万人もの若者、市民たちが、毎週金曜日に原発再稼働反対を訴えて首相官邸を取り囲んでいる。義仲の信利加羅合戦が源平の力関係を変えた。ターニングポイントと聞く。今日の日本では、いまがその時ではないだろうか。